

授業改善プラン

地域名	東葛飾教育事務所	学校名	柏市立西原中学校
-----	----------	-----	----------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

数学A問題が全国平均に対し「+1」ポイントとなっているものの、B問題が「-1」ポイントとなっていた。また「道のり・速さ・時間などの数量関係を、文字を用いた式に表したりすること」に課題がある。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

「数と式」、「関数」の領域を通して、生徒同士の学び合いを設定することで、式に表現する力、式を読み取る力などの数学的思考力・表現力が向上するだろう。

3. 具体的な実践

- アンケートや章末テストを基に、リーダー・サブリーダーを設定し、数学班を作った。
- 授業の中で、数学班により教え合い学習の時間を設け、教え合い活動を活性化させた。
- 定期試験の中で「数量関係や法則などを式に表現したり、式を読み取ったりする問題」を作成し、生徒の理解度を調査した。その結果を長期的に考察することで本研究の成果を確かめた。
- 学期末に「数学班」についてのアンケートを実施し、生徒の実態を把握した。学期ごとに数学班を再編成した。
 - ・全校で金曜日に「金曜プリント」を配付し、定着が不十分な単元を補っている。
- 令和元年度全国学力学習状況調査の正答率
 - ・令和2年に令和元年度の問題を実施して、全国や千葉県、昨年度の本校の6年生との比較をした。

4. 成果

- 相手の理解に応じて、工夫して教える力が付いた。
- 方法だけでなく、成り立つ理由や原理を説明できるようになった。
- 定期試験の記述式の問題においても、無解答の生徒が減り、記述しようとする生徒や正解できる生徒が増えた。

◆担当指導主事から（東葛飾教育事務所 指導主事 林部 理絵）

今年度も昨年度に引き続き、「無解答率」に着目し、各定期試験において「思考力・表現力を問う問題」を出題し、解答傾向の分析を図った。普段の授業において意図的に設定した生徒同士の学び合いの取組が、生徒の学習意欲のみならず、学習内容の理解度の向上につながるなど、有効な手立ての一助となった。